

トピックス
1. 「社労士への道」第4回 合格
2. 播州日誌 「武漢日記」



福留経営労務管理事務所
 姫路龍馬会
 社会保険労務士・行政書士
 福留章

龍馬通信

No. 36
 2020年12月号

大雪 冬至の候 心の静寂の中で

カレンダーの最後の1枚の薄さに過ぎ去った日々を思う季節。寒さに両腕をからめて心の静寂を思う。夜の長さは暗闇の深さともなって、尚一層寂しさがつのる。冬の星座はそのりんとした寒さの中で輝きを増し、傷ついた心を癒してくれる。日だまりの優しさは再び生きる力を与えてくれる。コロナ禍の終息はまだ見えない。季節はめぐってもじっと我慢の日常が続く。長い人生の中でこのような気分で師走を向かえることは今だかつてなかったような気もする。どんな情勢でも刻々と時は過ぎていく。コロナ禍という急ブレーキによって新しい時代が始まったと言う人がいる。個人としてははぐりの季節にこれまでの幾年月を顧みる。過去のすべての事を肯定し、現在（いま）ある生命を喜び未来が思った通りの現在となる瞬間をつみ重ねていきたいと・・・心から思う。

大雪から冬至へ 旧暦だから本当の寒さはもう少し遅れてやってくる。2020年最後の月、皆様にはご自愛あって元気に新しい年を迎えることに致しましょう。

- ※大雪 12月7日頃
- ※冬至 12月22日頃



龍馬と私 龍馬脱藩後の足跡（4）神戸海軍操練所

勝海舟にとっても、龍馬は貴重な存在であったと思われる。海舟40歳、龍馬28歳。気のきいた弟分ぐらいの感じであったかも知れない。龍馬は次々と勝門に人材を入れた。千葉重太郎、甥の高松太郎、既に脱藩していた吉村寅太郎、ともに脱藩した沢村惣之丞。河田小龍の紹介により近藤長次郎、新宮馬之助、千屋寅之助、望月亀弥太、安岡金馬など。後に亀山社中、海援隊の基礎を担う男たちである。他にも海舟の護衛役として後に「人斬り以蔵」の異名をとる岡田以蔵も入門した。海軍奉行並の地位にあった海舟は当時幕府を抱きこんで神戸海軍操練所と私塾を創る計画に熱中していた。まさに海舟にとって渡り舟の龍馬の活躍であった。幕末の奇跡というべきか、堂々たる幕閣である海舟のもとに土佐の脱藩浪人である龍馬が付き従っている。寄せ集めの脱藩浪士達を多数入れて神戸海軍操練所（神戸塾）を創設する。幕末ならではの出来事である。



1863（文久2年）海舟とともに幕艦順動丸で兵庫出帆。途中、下田に寄港。下田宝福寺で勝海舟と山内容堂が面談。その際、海舟が容堂に対して龍馬の脱藩罪赦免を請い許される。恐らく容堂は龍馬についてほぼ何の認識もなかったと思われるが酒の勢いで赦免に応じたのかもしれない。これは私の推測だけの話であるが。翌2月には京都土佐藩邸で7日間謹慎後、脱藩罪赦免となる。その後も龍馬の活躍は続く。同年4月には正式に神戸海軍操練所建設決定。幕府大目付役大久保一翁を再訪したり、姉小路公知の摂海視察に海

舟とともに随行。さらには前号に紹介した海舟の代理として、松平春嶽を訪ね横井小楠の周旋を受け、神戸塾設立資金五千兩の借用を果たしている。6月29日姉乙女あて「日本を洗濯する心境」を書き送っている。船上から行手を見つめる龍馬の得意げな姿が目につく。



播州日誌

「武漢日記を読んで」

「たとえ書かずに削除されても、私は書く」

深夜12時の更新を、1億を超える読者が心待ちにした。「称賛と批判の嵐の中で発信し続けた真実の記録」と帯には書かれている。発信し続けたのは武漢在住の著名な作家方方（Fang Fang）。新型コロナウイルス蔓延による1,100万都市の完全封鎖。そんな物質的、精神的極限状態の中で人々は何を思いどう行動したか。彼女はそんな状況・環境の中でこのような災厄に対して個人はどうあるべきかを真剣に考えた。どうしてもこの状況を書き留めておかなければならないという使命感に支えられ約60日間の武漢日誌が綴られた。



共産党の一党独裁、極端な隠ぺい体質の中国において、真実を語る事がいかに困難で危険な事かは他ならぬ中国国民、皆周知のことであり、彼女も何度も経験してきた事である。そのような環境の中で彼女はしかし、作家としての良心、人としての責任につき動かされ、そして、億単位の読者の存在に支えられて発信を続けた。それは魂の記録であり、今なおコロナ禍にある世界中の人々への希望の灯であった。日記は丹念に1日1日を活写している。随所に政府批判もみられる。しかし、作者が一番訴えたかったのは他にあった。言論の封殺、脅迫、暴力、真っ暗な闇におしこめられたもの言わぬ市民1人1人の生活描写を通じて、中国の未来が決して絶望的なものではないと言う事だ。近隣の人達が助け合う姿や無人状態のビルの谷間で黙々と清掃をする人達。走り回って食料や医療品を配達してまわる人達。そこには、人間の優しさと強さを感じられ、未来が決して暗闇ばかりではない事を予感させる。中国のSNSやインターネットの普及発展は日本をしのぐものがある。作者はだからウェブやその他の通信手段を駆使して発信し続けることができた。逆に激しい反撃も受けた。体制側から、一部の文学者達から又極左と呼ばれるグループから連日連夜、批判、中傷、脅迫が続いた。彼女のウェブはたびたび削除されやがて閉鎖されてしまう。閉塞の息苦しさに加えて、非常時に政権批判するのは非国民だという圧倒的な同調圧力が襲いかかる。嘘でかためられ、隠蔽された真実はいつの日か白日のもとにさらされることになるだろう。

中国国民がこの武漢の都市封鎖に至る原因と閉鎖中に起ったすべての事を知ろうとする限り、真実が闇に葬られる事がない事を信じる。武漢日記はその時に大きな役割を果たすことになると思われる。

私はうるわしい戦いを終えた。
私は走るべき道を走り終えた。
私は信じる道を守り通した。

このように結ばれる日記を読了した時、私は熱い涙が流れるのを禁じ得なかった。



2020.11.27

「社労士への道」

第4回 合格

ここに1枚の色の褪せた葉書がある。平成7年度社会保険労務士試験受験票。2762577。近畿大学長瀬学舎。7年7月11日消印のもので引き出しの片隅に今でも残っている。

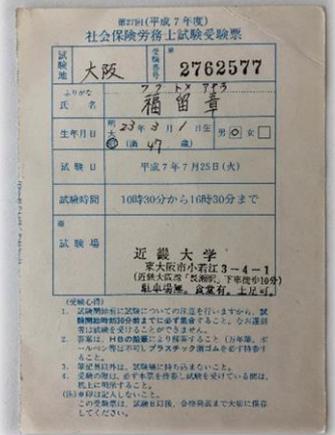
当時は勿論今のように社労士会が運営するのではなく社会保険庁運営部企画・年金管理課が分掌していた。試験当日の事は余り覚えていない。午前中に記述式、午後を選択式になっていた。ポイントと思っていた記述式は、全問一応解答できたし午後の択一式も自信があった。今でもそうだと思うけど、試験が終了して帰り道には、既に各受験校が来年も宜敷くとパンフレット類をもって勧誘する。ある意味失礼な話だと思うが、その時同時に択一式の解答表をくれる。恐らく各社の営業マンが、問題をいち早く手に入れる



為受験して、解答表を即座に作成するのだろう。おかげで択一式の合否は即日わかる。恐る恐る答え合わせをしたが思った以上の正解率でほっとした。帰宅後、記述式の解答を試みる。5問中2問正解していないと俗に言う足切りに合うので、本当に体が震えた。大問題発生。厚生年金で「給付」と「負担」と書くべきところ、「保険給付」「保険料負担」と書いてしまった。2問誤答になっても、ギリギリでセーフだが、ちょっと不安が残る。思い悩んで飲んだせいか翌日までお酒が残ってしまった。とにかく試験を終えてまわりの景色が全く違う景色に見える程、気分的に楽になった。ある程度自信はあったが、合否は下駄を履くまで解からない。11月の発表が近づくにつれ胃の痛い日が続いた。どうにも落ち着かない。

11月1日、朝から緊張して結果を待つ。その頃午前と午後1回ずつ郵便が届いていた。3階の書斎の窓から下を見る。午前中は郵便物なし。午後は郵便物があったが合格通知はなし。当時はHPで合否を確認するという術もなく、郵便に頼るしかない。勿論不合格の場合の通知などなく、ひたすら合格通知を待つしかないのである。

11月1日発表となっていた。常識的に郵便での通知なら2.3日遅れてくることもありということになる。1日目は要するに合格通知は来なかった。2日目も同じような事で、矢張り厚年の記述式で足切りかという思いがつのってきた。3日目の午前中の便だったと思う。当時は祝日配達があった。午前中の便でドサッと郵便が届いた。3階から走って1階に降り、郵便物をさぐる。あった、あった、郵便物の中から一枚の葉書が床に落ちた。合格の2文字。やったという喜びがあったが、家族には「なあ、合格やろ。合格やと思っとった。」と強がって見せた。息子には昨日、一昨日、顔色悪かったで。とからかわれたが。



1つの挑戦が終った。9ヵ月という短期間であったが精一杯やったという気持ちがあった。4月から通学に戻ってその時期からずっと答練が続いた。その都度10名位の戦友達の間で常に1位だった。彼らと先生から福留さんが落ちたら、うち(受験校)ももう終わりやでとまで言われていた。失業状態で、過去にこれ程勉強したことがないと言う程頑張った。とは言え、考えてみれば昼間は勉強ばかりだったが、夜は結構ナイターも見ていたし、酒も欠かさず毎日飲んでた。先程は必死で勉強したというような事を言ったが、まあ、適当に休み休みではあったのだろう。そしてそれが結果論だが、余裕をもって試験に臨めたという事かも知れない。

受験票はあるのに合格の葉書はいつの間にか紛失してしまった。短期間ではあったが受験勉強の期間は本当に学ぶ楽しさを満喫した。人生の中で最も重要で充実した9ヵ月間であったのかもしれない。協力してくれた家族に感謝感謝。

最終職歴が管理職であった事から、実務研修も免除され、すぐに開業できる状態にあった。夢の実現へ確実に一步を踏み出すことになった。

最終職歴が管理職であった事から、実務研修も免除され、すぐに開業できる状態にあった。夢の実現へ確実に一步を踏み出すことになった。



感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



～賞与支払届について～

冬季賞与支給の時期となりました。賞与支払届が届きましたら全ての用紙にご印鑑をご捺印の上、当事務所までお知らせください。（ご捺印頂いた用紙を先にお預かりして、後日データをいただくという流れでも可能です。）

- 不支給の場合でも賞与支払い届の提出が必要です。
- 賞与を支給した方の氏名、総額、賞与支給日が必要です。
- 賞与支給の直前で退職された方は退職日も必要です。



よろしくお願ひ致します🎵



冬季休業のお知らせ

12月29日(火)～1月12日(火)までです。
今年もありがとうございました。
良いお年をお迎えください。

緊急連絡は090-1961-9588福留まで。